

平成 2 9 年

第 2 回（6 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通告者	3番 三石 孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 公共交通対策について</p> <p>(1) 乗合タクシーが開始され6年目に入ったが、利用者が少ないと聞く。過去5年間の実績はどうなっているか。</p> <p>(2) 公共交通手段として、現在の乗合タクシーシステム（路線不定期運行）は、最適のシステムであると考えているのか。</p> <p>2. 通学路について</p> <p>(1) 学童の交通手段は、徒歩による集団登校が実施されているが、登下校時の通学路の安全確保はできているか。</p> <p>(2) 通学路（歩道）に覆いかぶさっている立木伐採はどうなっているのか。</p> <p>3. 教育施設について</p> <p>3月議会定例会で、継続費が取り下げられた歴史文化交流館（仮称）の建設は、今後、如何なる方向で取り組むのか。</p>		

通告順位	2	通告者	1番 城 後 光 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 高齢者に対する町内交通体系の整備について</p> <p>平成29年3月に改正された道路交通法により、75歳以上の運転者においては免許更新時、認知機能の検査が追加された。町内でも多くの高齢運転者がいらっしゃる一方で、運転への不安から免許を返納されるケースも増えている。一方で、公共交通手段が充実しているとは言い難い。</p> <p>(1) 運転免許の返納を行った高齢者に対して、何らかの交通支援を行う考えはないか。</p> <p>(2) 予約制乗合タクシーについては、路線によって稼働率差があるようだが、運行見直しの考えはないか。</p> <p>(3) 年々利用者が減少している路線バス利用促進のため高齢者向け割引クーポンなど発行の考えはないか。</p> <p>2. 第59回陶器まつりの反省点と次回開催に向けての展望について</p> <p>今年の陶器まつりは、好天にも恵まれ32万2千人のお客様に来場いただいた。やきもの公園本会場以外でも、多くの出展者が町内各地で魅力ある企画を立て、交流人口の拡大に多大なる貢献を行っていただいている。一方で新しい取り組みへの課題も散見される。</p> <p>(1) 私設駐車場にも誘導標識表示、トラブル時の対応方法、住所の案内など、初めての来町者にも安心頂けるような、一定のルール徹底を行う必要があるのではないか。</p> <p>(2) 波佐見町・有田町を周遊されるお客様も一定数に上り、相互会場での案内掲示やマップ配布などお客様にさらなる満足度を得ていただくために、地域・主催団体を超えた連携が必要ではないか。</p> <p>(3) 陶器まつりの期間中、町内で行われるイベント・飲食店が一覧できるようなマップなどを年間行事予定の案内とともに、紙媒体もしくはインターネットで提供することができないか。</p>		

通告順位	3	通告者	2番 横山聖代 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 地域包括ケアシステムについて</p> <p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業が平成28年10月からスタートしている。この取り組みの一環として、今年3月までに6回にわたり生活支援サポーター養成講座が行われた。</p> <p>この講座には、何名が受講されているのか。また、具体的なサポート内容及び実際にサポートが開始される目途はたっているのか。</p> <p>(2) 生活支援サポートを必要としている要支援者数に対して、生活支援サポーターの必要数は何名か。</p> <p>また、サポーターを増やすためにどのような取り組みを考えているのか。</p> <p>(3) 自治会単位で、支援を受けたい人と、サポートしたい人を把握し、住民が自ら考える互助の地域づくりをしていくために、「支えあいマップ」(仮称)作りを推進してはどうか。</p>		
	<p>2. 要保護・準要保護児童生徒就学援助費について</p> <p>(1) 平成29年3月31日付けで、文科省より「要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱」の一部改正についての通達が出ている。これまで小学校入学準備に必要な援助が入学後になっていたものを、入学する前にできるように改正されたものである。本町においての取り組みはどのようになるのか。</p> <p>(2) 就学援助補助制度について、保護者に対する周知方法及び告知の時期は。</p> <p>(3) 要保護・準要保護援助世帯に該当するかを自ら判断することができない保護者も存在するものと考えられる。援助を受けられるにもかかわらず、申請漏れを防ぐために、これらの保護者に対して特別な周知を行う考えはないか。</p>		
	<p>3. 子どもの貧困について</p> <p>経済的な理由により、就学困難と認められ就学援助を受けている家庭については、要保護・準要保護世帯として何らかの行政支援がなされている。しかし、支援の対象にならない一人親、もしくは複数の子どもを抱える家庭においても、何らかの支援を必要とするケースも考えられる。</p> <p>(1) 本町において、要保護・準要保護世帯以外でも、相対的に貧困と思われ</p>		

	<p>る世帯の状況は把握できているのか。</p> <p>(2) 小中学生に対する支援については町が主体的に行っているが、それ以外の子どもに対しても切れ目のない支援を行う用意はないのか。</p>
質問の相手	町 長、教育委員長

通告順位	4	通 告 者	8 番 石 峰 実 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 波佐見南地域の振興と活性化策について</p> <p>町ではこれまで様々な分野、地域において諸施策を展開し、住民福祉の向上と生活環境の改善等に努めてきている。そのため波佐見町や波佐見焼の認知度も高まり、観光等の来訪者も多くなっている現状だが、町内全体を見た場合に、その波及効果や恩恵を受けている所とそうでない所の地域格差あるいは施策が行き届いていない面もあるように感じている。そこで波佐見南地域の振興と活性化策について見解を問う。</p> <p>(1) 諸施策を推進するに当たって町内の一部地域やスポットに集中、偏りが見られ、もっと南地域の振興、活性化を図る取り組みを充実させるべきではないのか。町としての今後の対応、対策等についてどのように考えるのか。</p> <p>(2) 27・28年度に長崎国際大学と連携して観光等に関する調査を実施されたが、その結果はどうだったのか。来訪者の感想やニーズはどんなものが寄せられたのか。また、調査結果から観光動向とその波及効果はどう捉えているのか。</p> <p>(3) 南地域における現状は、温泉施設とホテルの魅力発信のみが際だって見えるが、観光周遊や食事・飲食面に至るまでの広範な温泉商店街の振興や形成等には行政の後押し、支援が欠かせない。町としてもっと力を注ぐべきではないか。</p> <p>(4) 最近ようやく地元紙が桜づつみ等の素晴らしさを取り上げるようになっており、花見客等の来訪者も増えてきた。全長が約7キロ、650本にも及ぶ桜並木の魅力とともに周辺地域の豊かな自然をもっとPRし、広く情報発信してヘルスツーリズム等の観光資源として活かすべきと思うがどうか。</p> <p>2. 農業振興における米政策について</p> <p>国主導で昭和45年頃から続いてきた米生産調整政策が、制度改正・廃止により平成30年度から大きく変わりつつある。これまで瑞穂の国として営々と続いてきた米生産農業や農村環境が一変するやもしれない状況である。こうした中での対応や周知、啓発はどうやっているのか。</p> <p>(1) 国主導の減反から新たに県、市町、JA等が調整・取りまとめを行い、農業再生協議会が主体となって実施されるが、今後の具体的内容はどんなものか。</p>		

(2) 実施するに当たって財源確保や農家への支援と補償等のあり方はどうなっているのか。早めに制度内容を周知すべきではないのか。

質問の相手 町 長、農業委員会会長

--	--

通告順位	5	通告者	13番 藤川法男 議員	
質問事項及び旨	<p>1. 人口減少社会における教育行政を含む町づくり及びインフラ整備について</p> <p>(1) 本町が計画している町営住宅整備や庁舎建設等、また、児童減少が続く学校施設を含む小学校のあり方など、少子高齢者化に伴い時代に即した計画が必要である。今後は、今以上の利便性や効率性が求められる中、将来、どのような構想があるのか。</p> <p>(2) 西ノ原土地区画整理事業は、大きな節目である旧小学校講堂の補強工事（平成30年度完成）が行われている。また、西の原エリアは、賑わいを見せて活気があるが、その反面、事業自体は長期化し予算の確保も困難な状況であり、地元住民や町民の理解が得られていない。今後どのように予算化を図り推進するのか。また、計画の変更もあるのか。</p> <p>(3) 全国で高齢者のいたましい交通事故が問題になっており、運転免許証返納が論議されている。本町も同様であり、買い物弱者対策と併せて、どのような対策があるのか。</p> <p>2. 本町の中山間地等の景観について</p> <p>今年9月に「全国棚田サミット」が開催されるが、それはひとえに鬼木郷の農家や地域住民の努力や協力の賜物である。川内郷や野々川郷、村木郷など地域住民も、地域活性化や景観の保全に努力しており、将来的に観光にもつながる「景観の保全」をどう推進するのか。</p>			

通告順位	6	通 告 者	1 2 番 堀 池 主 男 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 町営住宅の現状と今後の対策について</p> <p>(1) 山崎団地、鹿山団地は、すでに整備は完了している。小石原団地は昭和44年～46年に46戸が整備され、約47年が経過し建て替えの予定だが計画はどうなっているか。</p> <p>(2) 中尾団地は昭和47年に8戸、皿山南団地は昭和48年に10戸が整備され、老朽化など課題があると思うが、今後の計画はどうなっているか。</p> <p>(3) 各団地の駐車場は、団地によって条件が異なるが、1世帯に1台の料金と2、3台の場合の料金はどうなっているか。</p> <p>2. 高齢者の事故防止と乗合タクシーについて</p> <p>(1) 県内では、高齢者が絡む交通死亡事故が相次いでいるが、免許証の自主返納者に対するタクシー料金など、補助する考えはないか。</p> <p>(2) 乗合タクシーは、現在一週間に2回運行されているが、週5回にする考えはないか。</p> <p>(3) 乗合タクシーを利用するにしても予約が必ず必要で、また、停留所以外での乗り降りができないため、困っている人が多いと聞くが見直す考えはないか。</p> <p>3. 公用車の使用と役場周辺の環境美化について</p> <p>(1) 各課にある公用車の運行管理上、日報等は作成されているのか。</p> <p>(2) 車検整備や給油等は、町内の事業所で入札や契約をされていると思うがどうか。</p> <p>(3) 役場には、町内外から多くの人々が来庁されているが、玄関右側の花壇にはつつじの木があり、駐車場に出入りするときは危険との声がある。また雑草も生えたりして、美化の面からも悪い印象を与えていると思うがどうか。</p>		

通告順位	7	通告者	6番 百武辰美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 自治体連携について</p> <p>これからの人口減少・少子高齢化社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとして、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするために、他自治体と連携して地域の実情に応じた行政サービスの維持・向上に取り組もうとする「自治体連携」の模索が行われている。</p> <p>その、自治体連携について次の事項を問う。</p> <p>(1) 5月17日に「西九州北部地域（仮称）連携中枢都市圏協議会」の初会合がおこなわれているが、その協議会の概要と、その協議会に対する波佐見町の基本的な考え方は。</p> <p>(2) 大村市などの県央地域との連携は考えられないのか。</p> <p>(3) 従前より、東彼3町では福祉組合などによる共同事業を行なっているが、今後さらに追加して取り組もうしている施策はあるのか。また、検討する連絡協議会等は設置されているのか。</p>		

通告順位	8	通告者	5番 脇坂正孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1 防災対策について</p> <p>いつ発生するか分からない災害から、町民の生命、身体、財産を保護するためには、普段からの備えが重要である。以下、本町の防災体制について次の点を問う。</p> <p>(1)「波佐見町地域防災計画」にある訓練の種類ごとに、平成26年度～28年度の実施状況及び今年度の実施計画はどうか。</p> <p>①総合防災訓練 ②消防訓練 ③水防訓練 ④通信訓練 ⑤避難訓練</p> <p>(2) 災害時に避難所へ犬や猫のペットを帯同して避難可能か否かは大きな問題と思う。</p> <p>新聞報道によると、環境省は年内にも、災害時のペットの保護や飼い主の責任を定めた、ガイドラインを改定する方針を固めたとある。「波佐見町地域防災計画」にも、反映する必要はないか。</p> <p>(3) 川棚川浸水想定区域内に要配慮施設が2か所ある。洪水時の円滑迅速な避難を確保するためには、多くの情報が必要かと思うが、その一つとして、万年橋と横枕橋の橋脚に水位標を設置すればより早く危険度の察知が可能と思う。水位情報周知河川に関する避難計画の対応として、早急に整備できないか。</p> <p>(4) 水防用具や衣料品・生活必需品等の備蓄状況は充分か。不足の場合の対応はどうか。</p> <p>2. 公共施設総合管理計画について</p> <p>「公共施設総合管理計画」をこのほど作成されたが、管理に関する基本方針の中に「これまでの対処療法的な維持管理（事後保全）から、劣化が深刻化する前の計画的な維持管理（予防保全）への転換を推進します。」とある。確かに劣化や故障が進展する前に対処することは、施設の長寿命化につながり、安全性、利便性、経済性も増すと思うが、いつからどのように実施される予定か。</p>		